

南八ヶ岳の植物

平成18年6月25日（日）調査地 南八ヶ岳 野辺山海ノ口登山口～仙添尾根～横岳



イチヨウラン(ラン科)

葉が1枚だけ根元につくことからこの名がついた。亜高山帯の針葉樹林下に生える多年草。先の少し尖った楕円形の葉が1枚だけ根元からつく。茎の先に1花をつけ、淡い緑色の3枚の萼片と2枚の側花弁には基部に紫色の斑点がある。白色の唇弁は3裂し、紫色の斑紋がいくつか入る。

昨年度に引き続き、春の南八ヶ岳の調査を行った。

海ノ口登山口（標高1750m）を午前8時30分に出発。三叉峰（2825m）の稜線に出るまでに確認できた主な草本は、マイヅルソウ、コミヤマカタバミ、ミツバオウレン、ズダヤクシュ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、モミジカラマツ、イワカガミ、クルマバツクバネソウ、キバナノコマノツメ、ヒメイチゲなどである。木本はダケカンバ、コメツガ、シラビソ、オオシラビソ、ウリハダカエデ、オガラバナ、シラタマノキ、クロウスゴなど亜高山帯の樹林である。

詳しい場所は明記できないが、イチヨウランを三株見つけることができた。長野県の絶滅危惧種に指定されている希少種で、シラビソの薄暗い林床で小さな花をつけていた。

横岳（標高2829m）到着は十二時。稜線で確認できた草本はイワウメ、オヤマノエンドウ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマダイモンジソウ、コマクサ、ハクサンイチゲ、ミヤマキンバイ、クロユリ、クモマナズナ、ミネズオウ、ミヤマシオガマ、イワヒゲ、チョウノスケソウ、イワベンケイ等の植物である。木本では咲き始めのキバナシャクナゲが色鮮やかだった。稜線からは富士山を見ることができた。

絶滅危惧種であるウルップソウは稜線上に多く見られた。今年は雪が多かったせいかまだ花をつけだしたばかりで葉も小さかった。八ヶ岳と白馬岳、北海道にわずか見られる大変珍しい植物である。

ツクモグサは横岳の山頂の岩場に張り付くようにわずか見ることができた。このふたつの絶滅危惧種は長野県というより、日本の希少種である。地元の財産として大切にしたい。

つぼみではあったがオキナグサと思われる個体を見つけることができた。収穫の多い山行だった。



ツクモグサ (キンポウゲ科)



オキナグサ (キンポウゲ科)



ミヤマシオガマ (ゴマノハグサ科)



キバナシャクナゲ（ツツジ科）



ミヤマキンバイ（バラ科）

資料提供 佐久教育会植物委員会